5　今年度の重点課題（学校アクションプラン）

	平成３０年度高岡南高校アクションプラン　－１－	
重点項目	進路支援	
重点課題	（１）３年間を通して挑戦する気持と諦めさせない心を育成するとともに、全校協力態勢のもと粘り強く最後まで指導し、生徒の第一志望校（願書出願をした大学の中で最も行きたい大学）合格を支援する。 （２）一人一人の生徒を理解して実態を的確に把握した上での学習習慣の育成や進路指導が重要という意味で、面接指導の充実を図る。	
現　　状	生徒の持っている素質や能力からすると、十分に生かされたとは言い難い進路結果である。安易な方向に流れて学習が継続できなかったり、目標を諦めるのが早く最後まで挑戦する気持を持ち続けられない生徒が少なくない。	
達成目標	（１）生徒の第一志望校（願書出願をした大学の中で最も行きたい大学）合格率	（２）生徒１人あたりの面接実施回数（担任、副担任、授業担当者）
	卒業生数の６５％以上	１・２年生：6回以上、３年生：12回以上
方　　策	（１）学習時間のスタンダードは、＜平日：1年・2時間、2年・3時間、3年・4時間＞＜休日：1年・4時間、2年・6時間、3年8時間＞とし、全体に周知を図りながら学習時間を位置づけた生活習慣を身につけさせる。なお、３年生は体育大会後は平日5時間、休日10時間を標準とする。 （２）１年生の初期指導を重視する。また、面接週間以外に校外模試の自己採点時での面接を必須とするなど面接指導を通して生徒の気持ちを前向きにさせる。 （３）大学入学共通テストに対応し、定期考査の約１割は思考力を試す設問とするなど授業やテストを通して思考力の養成を図る。 （４）高い志望校の設定を指導しながらそれを貫かせるように支援する。また、そのことを通して挑戦する気持と最後まで諦めない心の育成を図る。 （５）校内外テストの成績状況や結果を分析し、今後の指針となるような資料を作成するとともに校内全体で各学年の情報を共有できるよう努める。 （６）３年生の進路支援を全校協力態勢を確認しながら充実を図る。特に、センター試験後の２次試験対策を強化し、生徒の第一志望校合格を支援する。	
達成度	（１）については５６％と目標を達成できなかった。 （２）については、各学年とも目標以上に達成できた。	
具体的な取組状況 上記方策の（１）～（６）に対応して記述	（１）毎朝、前日の学習時間を書かせることを通して自分の生活を振り返らせている。９月中旬段階で、１年・２年とも（平2+α〈135分〉・休3〈180分〉）ぐらいであり、３年生は（平4〈240分〉・休7〈430分〉）というのが現状である。 （２）１年生については、生活指導と面接を中心に初期指導（早く高南の生徒にする）を全校で展開した。１学期の早い段階からその効果（例えば、挨拶などがきちんとできる）が現れている。 （３）定期考査に入れた思考力問題とその評価や検証についてのレポートを、各学期末に全校の職員に提出してもらって冊子にまとめている。どの程度生徒の思考力を養成できているか客観的に判断することはできないが、全校的な展開として今後も取り組んでいくつもりである。 （４）３年生１２月段階で、難関１０大学志望者が２９名（東大０・京都２。昨年の難関１０大学志望者３５名）となっているので、ほぼ例年並と考えて良い。もちろん、センターの結果で変化はあるが、難関大学だけでなくて全校を挙げて最後まで支援する態勢になっている。 （５）各学年とも外部模試の結果分析を模試ごと行い、全員がすべての学年の状況や情報を共有できる仕組みになっている。 （６）３年生の成績状況や志望状況は、全校で共有する仕組みになっている。学年の枠を超えて、全校態勢で３年生を支援する。	
評価	C	（２）は十分クリアしたが、（１）はやや不十分であった。
学校評議員の意見	・予習、復習等の初期指導を重視し、生徒がしっかりと目標を持ち、進んでいけるような学習指導と面接を心がけてほしい。	
次年度に向けての課題	（１）面接による生徒支援は次年度も変わらず実施していきたい。 （２）第一志望校の合格率が判明した時点で原因を探り、次年度の対策を考えたい。 （３）難関大学志望者の少なくとも半数が出願するようにしなければならない。今年度の育成計画を検証し、次年度の対策に生かしたい。	

（　）評価基準　A：達成した　B：ほぼ達成した　C：現状維持　D：現状よりわるくなった

	平成３０年度高岡南高校アクションプラン　－２－
重点項目	学校生活
重点課題	自主自律の精神に満ちた品格のある生徒集団の形成
現　　状	（１）礼儀、時間の厳守、身だしなみなど南高校生としてふさわしい品格が身についている生徒が増えてきている。 （２）生徒が主体的に関われる活動が増え、活発に取り組む生徒が増えてきている。
達成目標	（１）礼儀、時間の厳守、身だしなみなど、南高校生としてふさわしい品格が身についていると感じている生徒の割合　９０％ （２）学校生活に主体的に取り組んでいると感じている生徒の割合　９０％
方　　策	（１）日頃の登校指導や声掛けの中で、あいさつ・身だしなみ、時間厳守等の意識の向上を図る。 （２）外部講師や保護者から着こなしやマナーについて指導していただく機会を設ける。（マナーセンスアップ教室、さわやか運動など） （３）生徒が校訓の理念を理解し、それにふさわしい行動ができるよう、生徒会執行部や校紀委員会を中心に多くの生徒が企画、運営に関われるよう工夫する。 （４）現代の社会問題について外部講師から指導していただく機会を設ける。（薬物乱用防止教室、ネットトラブル対応教室など） （５）部会の定例化や学年との連携を密にすることで、学校生活の問題点や情報を共有しながら、日常的に学校全体で協力して指導する。
達成度（中間）	校紀委員会実施アンケート結果より　（１１月実施） あいさつ　よくできている　：２８％　できている　：６０％ 身だしなみ　よくできている　：３６％　できている　：５８％ 時間厳守　よくできている　：３０％　できている　：５９％ 品格　よく身についている　：１６％　身についている　：７５％ 自主自立　よく身についている　：１５％　身についている　：６８％
これまでの具体的な取り組み状況	（１）毎朝、校門と生徒玄関で挨拶を交わしながら、生徒の様子を観察し、生徒のあいさつ、身だしなみの意識の向上を図った。学期始めに全職員で交通安全指導を行い、生徒の交通マナーの向上、通学路・送迎ゾーンの危険箇所の確認を行った。 （２）外部講師を招聘し「マナーセンスアップ教室」（１年生）を行った。保護者の方にもさわやか運動に参加していただき、生徒たちの様子を見ていただいた。 （３）６月に実施した地域の清掃奉仕活動（クリーンアップ戸出）では、生徒会執行部の呼びかけに対し、約１５０名の生徒が自発的に参加した。 合唱コンクール、体育大会、南高祭において、生徒会執行部が企画、運営の主体となり、全校生徒が意欲的に参加した。 （４）外部講師を招聘し、現代の社会問題である「薬物乱用」（２年生）「ネットトラブル」（１年生）の防止教室を開催した。また、生徒玄関には、マナー向上の呼びかけや不審者情報を掲示し、注意を促した。 （５）定期的に生徒指導部会を持ち、指導方針を共有し、学校生活で起こった問題点を学年と協力し、なるべく早めに解決するようにした。問題が感じられた時には、ＳＴなどで担任から話をしてもらった。
評　　価	Ｂ
学校関係者の意見	・引き続き地域の方から、生徒は礼儀正しく、身だしなみもきちんとしていると評価されるように、種々の活動において生徒自身が自発的に取り組むことを習慣づけるような教育に努めてほしい。
次年度へ向けての課　題	・生徒自身から自発的なあいさつ、さわやかな身だしなみができるよう積極的に働きかける。 ・全職員で情報を共有し、意識の統一をはかり、生徒が学校生活の中でより主体的に行動するよう、細やかに対応ができるようにしたい。

（評価基準　Ａ：達成した　Ｂ：ほぼ達成した　Ｃ：現状維持　Ｄ：現状より悪くなった）

	平成３０年度高岡南高校アクションプラン　－３－
重点項目	学校の活性化
重点課題	将来への大きな志を持ち、意欲的に学び活動する生徒の育成
現　　状	（１）キャリアデザインプロジェクトＳで、自らの生き方や在り方を考え、将来への目標を持たせるような授業を展開している。 （２）生徒会執行部の広報部を中心に、学校行事を地域へ知らせ参観を求めている。近年、目標を高く掲げるようになっているが、さらにその目標を明確にし、仲間と協力し合って、より積極的に学べるようにするための工夫が必要である。また、地域へ公開することで、社会的な視点を持つ活動へと高められることが期待できる。
達成目標	（１）キャリアデザインプロジェクトＳを通じて、進路目標が明確になった生徒の割合　８０％以上。 （２）学校行事に際し、地域住民に対しての広報活動を行い、多くの参観を求める。
方　　策	（１）総合的な学習の時間において、地域の方や同窓生、保護者、大学の教授などの活動を伺う機会をもち、広い視野で将来の目標を考えられるようにする。 （２）体育大会・南高祭において、地域住民へ事前にプログラム等の配布を行い、参観の環境を整える。
達成度	（１）それぞれの活動の機会には、ワークシートなどを用いて、記録や感想などを記している。 ２学年はキャリアデザインプロジェクトＳを終了したが、この２年間の活動を通じて、進路目標が明確になった生徒の割合は７６．１％。 （２）合唱コンクール・体育大会・南高祭の各行事に先立ち、広報紙「サウスウインド」とプログラムの地域配布を行った。これらの広報活動は地域の方の学校行事への関心に寄与していると考えられ、それぞれ当日には多くの方の参観をいただいた。
これまでの具体的な取り組み状況	（１）１学年では、１学期にキャリアデザインゼミナールとして１０講座を設け、講師を招いて、職業や社会貢献、生き方などについて伺った。２回予定していたが、２回目は大雨の影響で実施できなかった。 ２学期からは、文理選択に向けて学部学科調べを行い、１０月には金沢大学を訪問し卒業生からもアドバイスをもらった。さらに、グループごとに興味ある分野の本を読んで知識を得た上で、１月には近隣大学から講師を招いて、模擬授業を実施していただいた。 ２学年は、大学連携講座Ⅱとして富山大学の教授からアドバイスをいただきながら（５月研究室訪問、８月本校にて中間発表、１０月本校にて講座内発表）グループでの探究的な活動を行った。１０月の全体発表のポスターセッションは、１学年や校外へも公開とした。最後に、キャリアプランニングとして、これまで学んだことや各自選んだ書籍から読み取り考えたことをレポートとしてまとめた。 （２）４月には合唱コンクールを通じて新たなクラスの融和を図り、６月には体育大会を通じて団結し、協力し合う姿勢を培った。また、９月の南高祭では生徒会執行部と各クラスが創意工夫を凝らして学校全体を盛り上げた。なお、これらの行事には地域から多くの参観をいただいた。 このほか、６月に生徒会執行部主催のボランティア活動「クリーンアップ　戸出」を地元自治体とともに実施し、２月には生徒会執行部、吹奏楽部、合唱部がいきいきサポートセンター「ゆめ」の訪問ボランティアを行った。 ３月には文化部発表「スプリングアートフェスタ」を実施する予定であり、地域への広報活動を行った。
評　　価	B
学校関係者の意見	・キャリア教育は、毎年同じ内容でなく今後も工夫し、生徒や時代に即した内容で実施してほしい。
次年度へ向けての課題	（１）キャリアデザインプロジェクトＳと称した一連の活動に積極的に取り組ませる工夫は必要。それぞれの活動について、目的と計画を明確にさせる。 （２）富山大学との連携については、テーマ決めから進捗状況について連絡を取り合うようにする。 （３）校内の諸活動を積極的に地域の方に公開し、様々な形で助言をいただくことにより、活動内容に社会的な視点を持たせるようにする。

（　）評価基準　Ａ：達成した　Ｂ：ほぼ達成した　Ｃ：現状維持　Ｄ：現状より悪くなった

	平成３０年度高岡南高校アクションプラン　－４－
重点項目	ボランティア活動
重点課題	１学年：生徒のボランティア意識の向上 ２学年：自発的なボランティア意識の向上 ３学年：地域と連携したボランティア活動への意欲的な取り組み
現　　状	１学年：これまでのボランティア活動への参加が５割程度 ２学年：昨年度のボランティア活動への参加が学年の８割程度 ３学年：ボランティア活動への参加が学年の７割程度
達成目標	１学年：１年生全員がホームルームその他のボランティア活動に参加する。 ２学年：全クラスがホームルームでボランティア活動を計画し実践する。 ３学年：地域と連携したボランティア活動への参加が学年の８割程度
方　　策	１学年：①身近なボランティア活動をクラス単位で企画し実践する。 ②生徒会のボランティア企画への参加を促す。 ２学年：①生徒会のボランティア企画や部活動、クラス単位での積極的な参加を促す啓発活動を行う。 ②校内外のボランティア活動の情報提供に努める。 ３学年：①ボランティア活動が実践できるようホームルーム計画を立てる。 ②生徒会のボランティア企画への参加を促す。
達成度	１学年：各クラスで企画して、地域または校舎内外の清掃活動を実施。 ２学年：２クラス毎に合同で「クリーン大作戦」を実施。高岡南高校～戸出商店街～戸出駅周辺の清掃活動を実施。 ３学年：５クラス合同ＨＲで「クリーン大作戦」を実施。学校周辺、テニスコート周辺、戸出町内の公園の清掃活動を実施。
これまでの具体的な取り組み状況	１学年：各クラスＨＲで「クリーン大作戦」を実施。１クラスは高岡南高校～戸出商店街～戸出神社周辺の清掃活動、３クラスは学校周辺の清掃活動を実施。（１１／８、２／７）生徒会企画の戸出七夕祭りの清掃ボランティアに部活動ごとに参加。（陸上部、ソフトボール部、吹奏楽部、ソフトテニス部など） ２学年：２クラスがＨＲで「クリーン大作戦」を実施。高岡南高校～戸出商店街～戸出駅周辺の清掃活動を実施。（１１／８、２／７）野球部員で戸出保育園のグラウンド整備を実施（９／１１） ３学年：５クラス合同ＨＲで「クリーン大作戦」を計画、実施。学校周辺、テニスコート周辺、戸出町内の公園の清掃活動を実施。（１１／８）
評　　価	Ａ　各学年でも目標を達成した。
学校関係者の意見	・ボランティア活動は、心を豊かにするよい機会なので、地域からさらに広げて、外部のボランティアにも活動の場を広げることにより、人間的にも成長させてほしい。
次年度へ向けての課　題	学校教育においてボランティア活動を行う際、個々の生徒の興味・関心に応えることは難しいが、クラス単位・学年単位で同一内容の活動に取り組むことで、生徒の意識も向上したと思われるので来年度も継続して実施したい。仲間と体験したことを共有することで、ボランティアに対する理解がさらに深まり、更なる活動へと発展させるためにも振り返り学習を重視した活動の実践が望まれる。

（評価基準　Ａ：達成した　Ｂ：ほぼ達成した　Ｃ：現状維持　Ｄ：現状より悪くなった）

	平成３０年度高岡南高校アクションプラン　－５－
重点項目	教師力向上
重点課題	教科、学年、年代を超えて学び合う組織作り
現　　状	（１）互見授業などを活用し、教科、学年、年代を超えて授業を参観する機会が増えてきたが、互いに学び合う場としてさらに工夫の余地がある。 （２）ここ数年で増加した若手教員に対する育成体制が整いつつある。 （３）県外における学校視察や授業研修の機会が減少している。
達成目標	（１）他教科の授業を含めた互見授業参観２回以上 （２）若手教員と中堅教員、ベテラン教員が相互に学び合う校内研修の実施回数２回以上 （３）県外の学校視察や授業研修への参加２名以上
方　　策	（１）①互見授業期間に各教科１名以上の指定公開授業を行う。 ②他教科の授業を含めて、授業を２回以上参観する。 ③報告書を書くことで自分自身の学びを確認する。 （２）年次研修を活かした、若手教員と中堅教員、ベテラン教員が学び合う校内研修を実施する。 （３）年度当初より計画的に県外視察等の予算を確保する。
達成度 （中間）	（１）他教科の授業を含めた授業参観の回数２回以上：７４％ （２）校内年次交流研修の回数：２回（１学期１回、２学期１回） （３）県外での研修会参加：２名
これまでの具体的な取り組み状況	（１）①互見授業期間に各教科１名以上の指定公開授業を行う。 ②他教科の授業を含めて、授業を２回以上参観する。 ③報告書を書くことで自分自身の学びを確認する。 （２）年次研修を活かした、若手教員と中堅教員、ベテラン教員が学び合う校内研修を実施する。 （３）年度当初より計画的に県外視察等の予算を確保する。
評　　価	B
学校関係者の意見	・新教育課程やＩＣＴに関する研修は、報告会を設定して、全教職員で情報を共有するようにしてほしい。
次年度へ向けての課　　題	（１）互見授業、研究授業参観への呼びかけをさらに積極的に行い、参観後の振り返りができるような工夫をする。 （２）今後増え続ける若手教員の育成を、さまざまな年代が関わり合って効果的に行う。

（評価基準　Ａ：達成した　Ｂ：ほぼ達成した　Ｃ：現状維持　Ｄ：現状より悪くなった）